

| | | | |
|--------------------------|--|---------|---|
| 1. 科目名 (単位数) | 英語学Ⅲ (英語の談話) (2 単位) | 3. 科目番号 | EDEN3309 |
| 2. 授業担当教員 | 坂井 二郎 | | |
| 4. 授業形態 | グループディスカッション、グループプレゼンテーション | 5. 開講学期 | 秋期 |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | 教育学部 3, 4 年次学生対象 | | |
| 7. 講義概要 | 本講座の目標は、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身につけることにある。そのため英語学の1つの分野である語用論 (pragmatics) の中の談話分析に焦点を当てて学習する。談話 (ディスコース) とは、「文 (または節) よりも大きな言語単位」を意味し、談話分析では話し言葉と書き言葉の双方によるやり取りを研究対象とする。この科目の学習目的は、自然な話し言葉と書き言葉の談話の性質を深く理解するとともに、話し言葉と書き言葉の談話分析について考察することである。授業では談話分析と文法、語彙、会話の役割、話し言葉と書き言葉の談話を中心に学修し英語学の知見を養い英語教員としての教養を高める。 | | |
| 8. 学習目標 | 1. 話し言葉と書き言葉の談話の性質について理解する。 2. 話し言葉と書き言葉の談話分析について理解する。 3. 談話分析の英語教育における意義と役割について理解する。 | | |
| 9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題 | 課題はそれぞれの授業内容に関し概要をまとめることを意味する。Zoom の場合はチャットに書き込み、対面の場合は用紙に記載し提出する。課題は授業内で各自に口頭発表してもらうのでそのつもりで取り組むこと。 | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | 【教科書】 橋内武『ディスコース—談話の織りなす世界』くろしお出版。 【参考書】 マイケル・マッカーシー、安藤貞雄、他『語学教師のための談話分析』大修館書店。 林宅男、他『談話分析のアプローチ：理論と実践』研究社。 | | |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法 | ○成績評価の規準 1. 話し言葉と書き言葉の談話の性質について理解できたか。 2. 話し言葉と書き言葉の談話分析について理解できたか。 3. 談話分析の英語教育における意義と役割について理解できたか。 ○評定の方法 グループ学習への参加度・貢献度 30% 課題・提出物 30% 試験 (小テスト・口頭発表等) 40% | | |
| 12. 受講生へのメッセージ | 1. 例を出しながら授業を進めますが、疑問やわからないことはそのままにせず、些細なことでも気軽に質問してください。 2. 宿題は授業時のペアやグループでの演習の題材となるため、必ず行なってください。 3. オンラインで授業に出席する場合はカメラは必ずオンにしてください。 | | |
| 13. オフィスアワー | 初回授業時に指示する。 | | |
| 14. 授業展開及び授業内容 | | | |
| 講義日程 | 授業内容 | 学習課題 | |
| 第 1 回 | 「英語の談話」とはなにかをシラバス、教科書の「はしがき」と「目次」を読んで、科目全体の学習内容と到達目標の確認を行う。 | 事前学習 | 教科書の「はしがき」と「目次」を読み授業の内容について確認する。 |
| | | 事後学習 | シラバスと授業ノートを基に、科目の概要と到達目標を再確認する。 |
| 第 2 回 | 談話分析の考察を通して「談話」の本質について理解する (第 1 章)。 | 事前学習 | 第 1 章 (pp. 3~10) を読み概要、自分の意見、疑問点などをノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 授業内容を再確認しノートを整理する。 |
| 第 3 回 | 文法構造としての「ことばの構造」とコミュニケーションの働きとしての「ことばの機能」を理解する (第 2 章)。 | 事前学習 | 第 2 章 (pp. 11~20) を読み概要、自分の意見、疑問点などをノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 授業内容を再確認しノートを整理する。 |
| 第 4 回 | 談話をテキストとコンテクストの総体として理解する (第 3 章)。 | 事前学習 | 第 3 章 (pp. 21~28) を読み概要、自分の意見、疑問点などをノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 授業内容を再確認しノートを整理する。 |
| 第 5 回 | 談話とコミュニケーションの関係を理解する (第 4 章)。 | 事前学習 | 第 4 章 (pp. 29~36) を読み概要、自分の意見、疑問点などをノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 授業内容を再確認しノートを整理する。 |
| 第 6 回 | 談話文法に注目しながら書き言葉の談話分析を理解する (第 7 章)。 | 事前学習 | 第 7 章 (pp. 55~64) を読み概要、自分の意見、疑問点などをノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 授業内容を再確認しノートを整理する。 |
| 第 7 回 | 第 2 回から第 6 回の学修内容について確認・整理してのまとめを行い英語教育への活用について考える。まとめテスト 1 | 事前学習 | 第 1 章から第 4 章と第 7 章までの内容を教科書とノートで再確認し、英語教育への活用について考えておく。 |
| | | 事後学習 | 授業内容を再確認しノートを整理する。 |
| 第 8 回 | 発話行為論と話し言葉の談話分析の関係を理解する (第 8 章)。 | 事前学習 | 第 8 章 (pp. 65~72) を読み概要、自分の意見、疑問点などをノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 授業内容を再確認しノートを整理する。 |
| 第 9 回 | 話し言葉の談話における会話の含意と協調の原則の役割について理解する (第 9 章)。 | 事前学習 | 第 9 章 (pp. 73~80) を読み概要、自分の意見、疑問点などをノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 授業内容を再確認しノートを整理する。 |
| 第 10 回 | 話し言葉としての談話分析である会話分析を考える 1: 電話での会話の始め方と終わり方について理解する (第 11 章)。 | 事前学習 | 第 11 章 (pp. 88~98) を読み概要、自分の意見、疑問点などをノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 授業内容を再確認しノートを整理する。 |

| | | | |
|------|---|------|---|
| 第11回 | 話し言葉としての談話分析である会話分析を考える2：話者交代・挿入連続・選好される応答形式・修復などのキーワードで会話の諸相を理解する（第12章）。 | 事前学習 | 第12章（pp99～108）を読み概要、自分の意見、疑問点などをノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 授業内容を再確認しノートを整理する。 |
| 第12回 | 談話の理解における背景知識の役割について理解する（第16章）。 | 事前学習 | 第16章（pp130～140）を読み概要、自分の意見、疑問点などをノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 授業内容を再確認しノートを整理する。 |
| 第13回 | 談話分析の研究課題である辞書の中の談話辞（談話標識）の役割を理解する（第22章）。 | 事前学習 | 第22章（pp.189～196）を読み概要、自分の意見、疑問点などをノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 授業内容を再確認しノートを整理する |
| 第14回 | 英語の教科書作成における談話分析の役割について理解する（第23章）。 | 事前学習 | 第23章（pp.197～206）を読み概要、自分の意見、疑問点などをノートにまとめる。 |
| | | 事後学習 | 授業内容を再確認しノートを整理する。 |
| 第15回 | 第2回から第14回までの内容を振り返り英語教育における談話分析の知見の意義を考える。まとめテスト2 | 事前学習 | 英語学 III（英語の談話）の授業内容を振り返り、英語の談話に関する知見の英語教育における意義について考える。 |
| | | 事後学習 | 授業内容を再確認しノートを整理する。 |